

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社 信樹会		
事業所名	グループホーム 城山の杜2丁目		
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	令和4年11月14日	評価結果市町村受理日	令和5年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月1日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには三陸縦貫道路があり交通の便に恵まれています。それぞれの出来る事を発揮し役割をもち助け合いながら共に暮らす仲間として笑顔で暮らしていけるよう支援しています。ご家族には入居者さんの身体、精神状況を電話、メール等で細かく情報提供しいつでも相談しやすく共に支える関係と環境作りを心がけています。医療面においては24時間看護と連絡ができる状況であり協力医の往診も定期的にあり入居者さんとご家族に安心していただいています。入居者さんが力を発揮し自信をもち笑顔あふれる幸せな人生を送っていただきここで生活できて良かったと思える支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建ての2ユニットの事業所は、三陸自動車大槌IC近くにある。近辺には、消防署・学校など公的施設やスーパーなどの商業施設がある利便性の高い所である。コロナ禍であるが、令和3年、4年共に2カ月に1回の割合で運営推進委員会を集合開催している。委員は、家族代表や近隣住民の方々、町議会議員、行政担当課職員で構成され、専門家は不在なものの我が事としてざっくばらんに質疑応答している。入居者の状況や生活の様子、事故・ヒヤリハットなどの取り組みの課題を話し合っており、委員から誤薬防止の為にダブルチェックからトリプルチェックに変更することの助言を得たほか、コロナ禍での面会の仕方についても話し合い、その意見を反映して家族の面会を実施している。本年春には、全職員で考えた分かりやすく、覚えやすい運営理念に見直し、それに沿うようにと行動を始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年、職員全員に考えてもらい理念を改定した。介護記録の最初のページ、出入り口、スタッフ室に掲示し常に目に入る状況を作り意識向上を行っている。	開設以来14年間掲げてきた運営理念・運営目標を見直すため、全職員で考え管理者2名と主任2名で分かりやすく・覚えやすいものにまとめ、理念を「支え合う 優しさと笑顔あふれる 幸せな人生を」と改めた。理念・目標は、スタッフルームに掲示し、介護記録ファイルの最初のページにも綴られている。	新しく作り上げた理念・目標が、介護の場でどのように実践されているかについて、不断に振り返る機会を設けることが期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため日常的に交流は難しい所がある。	コロナ禍で外部との交流は少ないが、近所の方からは介護で使用する古新聞をいただき、また、事業所として障がい者施設のリサイクル活動に協力している。コロナ禍が収束した折には、幼稚園や学校との交流を再開したいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人までとはいかないが家族や入所相談に来た方には必要に応じてアドバイスしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居情報、事故報告、入居者の生活の様子、医療関係の報告を行い意見をいただいた事は報告書で回覧し現場に活かしている。	運営推進会議を2ヵ月に1回、デイホールで7名の運営推進委員が出席して対面開催している。会議では施設運営のほか、農業や害獣の話題にも及んでいる。誤薬防止対策のダブルチェックからトリプルチェックへの見直し、玄関先で距離を開けての面会など、委員意見を参考に実践に取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事や困難事例等は推進会議の際に健康福祉課の方にアドバイスをいただいている。	コロナ禍の感染対策や要介護認定申請等で、町担当課へ直接行ったり、電話・メールでやり取りをしている。防災ラジオからは気象情報等を得ている。釜石・大槌地域の医療との連携に向けて、リモート会議で参加している。地域包括支援センターからは入居相談が寄せられており、迷惑行為を行なう高齢者についても、行政と連携して受け入れを検討中である。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に一回身体的拘束等適正化委員会を開催し協議や内部研修を行っている。昨年は玄関は時間で施錠を行っていたがユニットで話し合い施錠をしないケアに取り組む事ができた。	身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催し、フィジカル・スピーチ・ドラッグのロックについて毎回確認している。防犯上16時から職員2名体制となる翌日6時までは、玄関ドアを施錠している。本人から「歩きたい」との希望があり、家族へ転倒リスクを説明し、了承のもと敷地内を歩行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いや表情、声のトーンに気を使い支援するよう取り組んでいる。 職員が自分自身の行動の振り返りができる声掛け、助言等を管理者は心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度に関して問い合わせがあったことから行政から資料を取り寄せ今後の相談の資料としてご家族から相談があった場合はすぐに対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し理解と納得が得られるよう努めている。いつでも相談にのれる事をご家族にも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんとは時間をかけ意見や要望を聞くよう努めている。ご家族には面談時に要望や意見がないか聞き取りを心掛けている。	夜勤やお風呂の1対1の時間が、話を聞く機会となっている。利用者からあったモップの使い方やトイレ使用後の掃除についての意見に、その都度対応している。面会や電話・メールで、家族からの要望等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話や全体ミーティング、ユニット会議等で聞き意見や提案を反映できるよう努めている。	管理者は、月1回の全体会議・ユニット会議、朝夕の送り時に、職員から意見等を聴き取っている。午後の入浴業務に円滑に入れるよう、休憩時間を15分早めるとか、看取り利用者居室への加湿器導入の提案が、職員から出されている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心をもって働けるよう資格取得に向けての費用は事業所でだしている。採用にあたり時間や休日、扶養内での労働等の希望を理解し対応している。身体的事情も考慮している。今年度はリフレッシュ休暇も新設された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人個人を見据えながら適切な研修、求められる研修を受けれるよう努めている。研修で得た事を活かしていけるよう役割分担を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者さんの安心、安全を第一とし不安なく暮らしていただくために信頼される関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	提供すべきサービスを説明し納得いただいた上での支援を行い、不安を軽減できるよう情報提供を行い相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の説明、予想されるサービスを見極めアセスメントを通して支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特別な見方をせず家事や調理に携わっていただき自立支援に向けた取り組みに努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時は情報を共有し通院には極力ご家族にお願いし会う機会、関わる機会にし絆が途切れない関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるが気を付けながら馴染みの美容室に行かれたり荷物が届けばお礼の電話をかけたり途切れない関係作りを支援している。面会は短時間で距離をとり実施している。	入居前に本人・家族から、入居後は世間話から、地域との関係性を聴き取っている。美容室の送迎で、2名の方が美容を利用し、親戚の方は、野菜や米を届けてくれている。施設内では、同じテーブルの方同士で新しい馴染みが生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係を把握し孤立しないよう席を決めている。アクティビティを通し関わり合える支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応できる体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、傾聴等を行い記録に残し共有しご本人の思いに添えるよう早めの対応を心掛けている。	10名の利用者が意志表示でき、お風呂やホールで寛いでいるときの会話から、希望や意向を聞き出している。食べに行きたいとの要望にはメニューに取り入れ、家に帰りたい希望には家族へ連絡し対応している。意思表示困難な方は表情から推測し、布団やエアコンで温度調整を行い、大きな声を発する場合には、便が近いと推測し、看護師による摘便を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴の聞き取りやこれまでのサービスの有無や内容、家族の情報等を聞き共有しこれまでと同じ暮らしに近づけるよう支援している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日二回の申し送りに体調、行動の変化やどう過ごされたかを共有している。毎日のバイタル測定、食事と水分量、排泄の記録、体重測定で健康状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や日々の会話の中で居室担当者の意見を聞きながらケアのあり方を話し合い内容を回覧する事で共有し介護計画書作成に活かしている。	毎月カンファレンスで入居者全員の目標達成状況等を検討している。介護計画のモニタリングと見直しは6ヵ月毎に行ない、本人・家族の意向の他に、主治医や福祉用具業者の意見も反映させている。介護度の更新や介護度の見直し時には、モニタリングに基づいた介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や職員間での気づきを基に話し合い記録する事で活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせ短期間のお試しや工夫する事でより良いサービスを提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であまりできていないが避難訓練時は消防、嘱託医、行事時は地域の移動販売車が来所された。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医をほとんどの方が利用しているが本人、家族の希望で以前からの病院を継続している方もいる。	殆ど入居者は、入居前のかかりつけ医の紹介状をもって、近くの協力医療機関に引き継がれている。協力医は夜間を含む24時間対応をしており、事業所の看護師もオンコール体制をとっている。通院は、家族対応を基本として、家族に病状や状態を説明し、受診結果は、看護師又は当日勤務職員が報告を受けている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	休日や夜間の体調不良時はいつでも連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループホームでの生活が安定できるよう病院関係者との連絡を密にとりカンファレンスを行い家族、本人が安心して帰所できるよう支援している。医療面が強くなり受け入れが困難な場合でも医療関係者、他施設との連絡を密にとり支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、2丁目では重度化の方や看取りの方はいないが重度化した場合の意向は契約の段階で一度聞き実際にそうなった場合に再度聞いている。看取りを希望された場合は当ホームでできる事とできない事の説明を十分に行いカンファレンスで情報を共有し安らかに過ごせるように支援する事にしている。	入居時に看取り介護の説明をし、急変時の対応と最期を迎える場の希望も確認している。身体機能の低下に応じ、カンファレンスで情報を共有し、看取りの支援に必要な体制を作り、安らかに過ごせるように支援している。家族とはその都度話し合っており、看取りを希望する場合には、協力医と連携しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護日誌に急変時の対応について綴られている書面と看護師の指示を基に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	文面でのマニュアル、簡易マニュアル手順を作成し職員に配布し訓練にて実施している。日中と夜間想定火災避難訓練、風水害時の訓練、電話連絡網の実施訓練を行っている。	ハザードマップでは、土砂災害警戒区域となっている。日中・夜間・風水害・救急救命(AED)・連絡網伝達の訓練を、実施している。風水害訓練では、大槌学園までの自動車避難で8分を要している。3日分の食料の他、備蓄品として、発電機・懐中電灯・おむつ・毛布・紙コップを備えている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己 外部	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉は使わないよう心がけている。入浴、排泄はプライバシーを損なわないよう介助以外の時間はその場から出てドアの向こう側で待ってる等配慮している。	職員は、全利用者の前職(看護師・教員・会社員・漁師・自営業など)を把握している。否定的な言葉は使わず、断りや頼む際にはクッション言葉を用いるよう心がけている。排泄の失敗時には、本人に聞こえる程度の小声で対応している。また、言葉や仕草、表情からも思いを汲み取り、本人と話しをしながら自分で決めれるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの言動、表情を基に思いをくみ取り本人に聞きながら自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のペースは決まっているが個々のペースで過ごせるよう寄り添える時間をつくり希望に沿った暮らしができるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容、訪問美容に来所してもらっている。行きつけの美容院がある方は定期的に出かける支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月の献立表は入居者さんの好みも取り入れている。誕生日には聞き取りしご本人が好きなメニューを提供している。米研ぎ、食材の下ごしらえ、片付け等を一緒に行っている。	全介助の方は2名、その他は自力摂取できる。両ユニットで5名の方が後片付けのテーブル拭きや茶碗拭きの手伝いをしている。昼食と夕食はパート職員が調理し、買い出しは事務職員が行っている。7月にキッチンカーを招き、たい焼き・焼き鳥・かき氷・ジュースを楽しんでいる。季節に応じて、おせち調理・恵方巻・煮しめ・赤飯・ミズキ団子を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自分で食事を食べれるよう刻み食やとろみをつけて提供し個々の食事量にも気を配っている。食事量や水分量が足りない時は補助食品や飲料を併用し申し送りをしている。			

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々に合わせ声掛け、見守り、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを活かし誘導時間の見直し、パットの変更を行っている。	両ユニットでおむつ使用は2名、布パンツ4名、その他はリハビリパンツに尿取りパッド併用となっている。排泄チェック表により小声でトイレ誘導し、ズボンの上げ下げ以外は、ドアの外で職員は待機している。失禁のある方には、排泄誘導時間を3時間から2時間に変更し、夜間10回程起き方には大き目のパッドを使用し、安眠できる時間を作っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操を行い体を動かしてもらっている。排便コントロールを行い個々に合わせた工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっているが体調や気分に応じて臨機応変に対応している。順番は関係性を考慮し組み合わせている。	週2回、月曜日から土曜日の午後に入浴している。要望や体調などに応じ、入浴日等を柔軟に調整し対応している。入浴時には、湯温の好みを聞き温度調節するなど、柔軟に対応している。寛いだ気分に入浴できるよう、1人でゆったり入浴している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できるようアクティビティや生活習慣の見直しを行い安心して入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のの内服薬の一覧が個別ファイルに綴られいつでも見れるようになっている。誤薬がないよう職員間でチェックし確認している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の家事、洗濯等の日常活動に協力していただいている。会話の中で本人の楽しみを伺い提供、傾聴をする事で気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため家族や地域の協力は難しい。希望に沿った外出はできないがホーム周辺を職員と散歩したりしている。	天気の良い日には、ホーム周辺を職員と散歩し、夏場には園庭で日光浴を行っている。花見は、コロナ禍のため下車しないでドライブしながら見学している。入居者の中には、美容院に出かけている方もいる。コロナ禍が終息した折には、外食したりドライブに出かけたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持っている方はいるが持っているだけで使う事はほとんどない今年度は。地元のおやつ屋さんに来ていただき自分のお小遣いでたい焼きやたこ焼きや焼き鳥を買い物し楽しみました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が不穏につながらなければ希望があればやり取りできる体制にある。贈り物が届いた時は荷物が届いた報告とお礼の電話は必ず行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう入居者さん達と作成した季節の飾りを壁面に飾っている。整理整頓を心がけ気持ちよく暮らしていけるよう支援している。	ホールは一丁目と二丁目を間仕切る壁を利用して、時計や切り絵、季節の装飾品(訪問時はクリスマスツリー)が飾られている。エアコン、加湿器があり、温度調整されている。中庭から日差しが入り、施設特有の臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は決まっているものの移動して会話やレクに参加していただいたりソファで休息できるようになっている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	状態によってそれぞれだが本人が使い慣れた物、、家族写真、仏壇、愛着がある物等を置いて安心して暮らせるよう工夫している。	居室は、エアコンや加湿器で空調管理され、クローゼット、洗面台が備え付けられている。入居者は、レンタルベッドやテレビのほか、本人が使い慣れた物や愛着がある棚なども持ち込んでいる。クロスワードが好きで机を用意してクロスワードを楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆さんがわかるよう場所の掲示をし自分で行動ができる生活を送れるよう努めている。		